

次世代エネルギーの
探究メディア

定価 2,625円 本体2,500円

November
2013 **11**

Solvisto

月刊 ソルビスト | Vol.32



6 [the Number of PV] panelists

セル王国台湾で10月30日から11月1日の3日間、
台湾貿易センター、台湾太陽光電産業協会、SEMIなどの共催による
PV Taiwan2013が開催された。

台湾大手セルメーカーのNSP、モーテック、ジンテック、
モジュールメーカーはシャープ、カナディアンソーラー、
原料からポリシリコンのOCIといったトップ6名が一堂に会した。

積水化学工業

ゼロエネ住宅新シリーズにソーラーフロンティアを採用

ハ

ウスメーカー大手の積水化学工業（根岸修史社長）

は、同社の住宅ブランド「セキスイハイム」で、10月26日にゼロエネルギー住宅「スマートパワーステーション」シリーズを発売した。

PVは「大容量化する程、経済性、環境性、非常時のメリットはより大きくなる」とし、同シリーズでは、PV一体型屋根に1.8mのロング庇をつけ、住宅規模114㎡からPV10kWの搭載が可能である。木質系住宅でも、南面の屋根面積を増やす3.5寸片流れ屋根にパネルを搭載することで、



ゼロエネ住宅「スマートパワーステーション」

こちらも住宅規模108㎡から10kW以上のPVを搭載でき、全量売電が可能であることが大きな特長となっている。

完全にソーラーフロンティア（玉井裕人社長）のCISモジュールが採用されている。鉄骨系住宅用のPVは、フラット屋根に隙間なくPVパネルを設置するため設置角を1度と水平に近くした。その分、汚れが雨などで流れにくい。パネルには防汚加工が施されており、汚れがひどい状態となっていない。さらに、CIS系は元々汚れた場合にも部分影に強い特性がある。住宅カンパニー住宅商品開発部の塩将一

グループ長は「日射エネルギーを多く受けてしまう屋根角度であるため、夏場の温度上昇は避けられず、発電量が下がる結果、晶系に対して薄膜系が温度上昇に強いこと。コストメリットも高いこと」も選定理由に加えた。約1年かけて両社で新製品

向けに共同開発したという。新シリーズでは、この他、

コンサルティング型HEMSや、定置型大容量リチウムイオン蓄電池も搭載する。安全機構を強化した蓄電システムを屋内置きとすることで、5kWh以上の蓄電池では世界最小クラスを実現。狭小地や寒冷地などでも設置が可能となっている。

積水化学工業は、12年PV搭載新築住宅を約1万棟販売、

搭載率については85%と大手

ハウスメーカーでトップを誇る。同社は新シリーズ販売目標を、13年度鉄骨系住宅で250棟、木質系住宅で50棟の計300棟、14年度はそれぞれ4倍増の計1200棟を見込んでいる。つまり、ソーラーフロンティアの同シリーズ向けPV出荷量は、1棟あたり最低10kWとすると、13年度3MW以上、14年度は12MW以上となる。

カナメ

25年製品保証開始

金

属屋根メーカーのカナメ（本社・栃木県宇都宮市、吉

原正博社長）は、従来販売しているPV用金具の長期信頼



対象製品の「フラットグリップ」

性を確認できたことから、10月15日以降の案件に対し25年間の製品保証

を開始した。

保証対象となる製品は「フラットグリップ」、「重ね折半用架台」、「縦置き用金具」シリーズ。同製品では高耐食性を有するアルミめっきステンレスを採用し高い耐久性を実現した他、屋根メーカーのノウハウを活かした構造設計も行っている。昨年8月から販売しているが並行して長期信頼性の確認を進めた。保証開始による価格の変更はない。

保証は期間中に金具が原因でシステムを保持できなくなった場合に無償で修理あるいは交換する。修理、交換の費用は同社が負担する。

サニックス

子会社で不適切会計処理14件

大

手販売店のサニックス（本社・福岡市、宗政伸一社長）は

11月12日、子会社が行った不適切な会計処理計14件の事実が判明したため、第1四半期決算の修正した。訂正後の売上高は157億53百万円となり、2億74万円減少した。

産業用PVの販売、施工を担当する子会社サニックスエンジニアリングの会計処理で架空売上計上が1件、計上時期のズレが13件あった。

架空売上はある従業員によって、約50kWのシステム8基分、約1億円が施工の実態が無いまま計上されていた。

計上時期のズレは、一部完工してなかったもの、完工に必要な部材がなかったもので計13件、1億73百万円を7月に計上すべきところ6月に行っていた。ズレの分は第2四半期決算に計上された。

今回架空計上を行った従業員の処遇は、非公表であったが、厳正に対処するとした。